

No.76 2011.12 DAIDO CAMPUS



写真提供:アルバム委員会

学生会執行委員会主催 体育祭

10月14日(金)、15日(土)の二日間にわたって、体育祭が開催されました。今年度は初日から雨が降るなど天候に恵まれませんでした。その様な天候のなか、体育祭第1日目のソフトボール、バスケットボールの両競技は開催されました。しかし、体育祭第2日目のバドミントンは実施されましたが、サッ

カーは残念ながら中止となってしまいました。メイン競技以外にも、観戦者が自由に参加できる飛び入り企画が催され、雨の降るなかでも、メイン競技に400人を超える学生が参加。スポーツをとおして、交流を深めるなどそれぞれに思い出を築いたこと

各競技にのぞむ学生の真剣さは、普段の生活とはまた違っていました。活気に満ち溢れた表情、白熱した試合の数々は、悪天候であったことを忘れさせるほどでした。

以下、開催された競技の上位3チームです

種目	1位	2位	3位
ソフトボール	トシカンズ	サラダ天国	上田オールスター(職員チーム)
バスケットボール	2年D.U.B	PDT	星のパンツ
バドミントン	傾奇者	未定	Green peaces



クラブ委員会主催 レガッタ大会

11月6日(日)に庄内川ボートコースで開催される予定でした「第48回錦杯学内レガッタ大会」は、天候不順および川の増水により中止となりました。

人事

●採用【法人本部・大学】

<事務職員> (H23.8.1)

伊藤 彰憲 大学事務部 学務室
野島 大策 総務部 総務室

【大学】

<教育職員> (H23.9.1)

平林 健治 教養部 外国語教室 教授

<教育職員> (H23.10.1)

五十川幸宏 工学部 総合機械工学科 教授
藤森 繁 工学部 建築学科 講師
小澤 茂樹 情報学部 総合情報学科 準備学科長付准教授



東北地方太平洋沖地震をはじめとする災害で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



澤岡 昭 学長 中日新聞連載 「宇宙は手の届くところに」

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、2009年6月より中日新聞で連載されています。

10月27日(木)に掲載されたミッション29「古川聡宇宙飛行士の話」では、現在国際宇宙ステーション(ISS)に滞在している古川聡さんの話を紹介しています。

宇宙飛行士は週五日間、午前と午後それぞれ4時間の作業があり、マニュアルに従って正確に実行する。さらに、作業後は2時間30分の体力トレーニングが義務付けられている。休日にもトレーニングは休むわけにはいかず、古川さんたち

は大忙しの毎日を過ごしている。けれども、古川さんは楽しそうだ。

古川さんは飛行士に選ばれてから飛行まで、日本人飛行士の中では最も長い12年間を待った。医学の道に進んでいたが、子ども時代からの夢を実現すべく、宇宙飛行士に応募した。彼の口癖は「あきらめない」と「継続は力なり」。長い間待ち続けた結果、6か月間の長期滞在が実現した。しかし、長期滞在には放射線被ばくという不安も付きまとう。宇宙では二日間で地上のおよそ一年分の放射線を浴びることになる。

学長は、「古川さんには宇宙医学の専門家として、尊い経験を生かして放射線被ばくの研究をリードしてほしい」と話している。

11月23日(水)、TBS『ひるおび!』に声の出演。古川飛行士の帰還についてコメントしました。



ミッション29
'11年10月27日



ミッション26
'11年7月27日



ミッション27
'11年8月27日



ミッション28
'11年9月27日

連載は、毎月第4木曜日に掲載されています。どうぞ、ご覧ください♪

「第23回 愛知サマーセミナー2011」で特別講座

7月16日(土)から18日(月・祝)の三日間、東海中学校・高等学校、名経大市邨中学校・高等学校、愛知大学車道校舎、建中寺公園を会場に1344講座を開講した「愛知サマーセミナー」が開催されました。日本最大級といっても過言では

ないこのセミナーは「『21世紀型学び』で希望と再生の物語を」をテーマに、夢の学校を展開。

そのセミナーの特別講師として、16日(土)1限(9:30-10:50)に澤岡学長が登場。「宇宙飛行士ものがたり」と題して、授業しました。

ちなみに同日の同じ会場では、2限に板垣淑子氏(NHK「無縁社会」ディレクター)、3限には西城秀樹氏(歌手)、4限は亀井静香氏(衆議院議員)が担当しました。

読売新聞、「論点」掲載

10月28日(金)の読売新聞に掲載された記事では、澤岡学長が今後の宇宙ステーションや宇宙開発の課題について述べています。

中国が、2020年に人間が長期滞在する宇宙ステーションを完成させることを目指して、独自の宇宙ステーション開発に向けて動き出した。現在、人間が宇宙に滞在できる施設は、日米欧露など15か国で建設した「国際宇宙ステーション」のみであるが、老朽化が進み、2020年には廃止される予定だ。ということは、20年以降、宇宙に人間が滞在できる施設を持つのは中国だけになる可能性が大きい。

宇宙は科学技術だけでなく安全保障上も重要な空間であり、政治や行政も腰を据えて考える必要がある。米国は宇宙開発大国の自負があり、中国だけが宇宙に拠点を持つことを看過し

ないだろう。日本も政府の宇宙開発戦略本部で検討すべきだ。

だが、各国とも厳しい財政状況下であり、人間を宇宙へ送り出すプロジェクトをそう簡単には打ち出せない。だが、お金がないなら、ないなりに方向を出して少しずつやっていくべきだろう。

各国の動向をにらみつつ、日本も10年単位の長期視点で検討する必要がある。



▲読売新聞(2011年10月28日)

「宏潤会 教養講座」で講師

11月1日(火)、だいでうクリニック5階講堂で、本学学長であるとともに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)技術参与でもある澤岡学長が「舞台裏から見た日本人宇宙飛行士の活躍」と題して、クリニックの職員に、講演しました。

現在宇宙ステーションに滞在中の古川さんを始め、日本人初の宇宙飛行士であるTBS社員の秋山さん、毛利さん、向井さんら多くの宇宙飛行士の活躍に興味深いエピソードを交えて話しました。また宇宙での食事、睡眠、排泄の事情の一端についても触れるなど、マスコミが伝えられない話も披露。参加者からは宇宙に関して日頃から疑問に感じていた質問が多く出され、盛會に講演会は終了しました。



BS朝日『いま世界は』に出演

11月27日(日)、世界各国の重要なニュースや世界経済の動きなどを伝える生放送番組、BS朝日『いま世界は』(毎週日曜19:00-20:54放送)に、宇宙開発特集のゲストとして澤岡学長が出演しました。

この特集では、1.「いま宇宙では何が行われ、私たちの生活にどう役立つのか」2.「陸・海・空に次ぐ21世紀のインフラとして注目される宇宙をめぐる新たな闘いとは」3.「ロシア・アメリカに続き有人宇宙飛行を成功させた中国の狙いとは」の3つのテーマから意見が求められました。

学長は「すべての型に効くインフルエンザ治療薬の開発など、宇宙での新薬開発実験は日本が世界の中で優位に立っていること」や「GPS開発では日本でも準天頂衛星初号機「みちびき」が打ち上げられ、これまでのアメリカ独占から各国で争われるようになったこと」、また「中国の宇宙技術力が非常に高くなってきており、今後脅威となること」など、コメントしました。

そして最後に学長は、世界各国の宇宙開発が進んできている今、「日本ももっと宇宙開発に人と予算をつけるべきだ」と力をこめて訴えました。



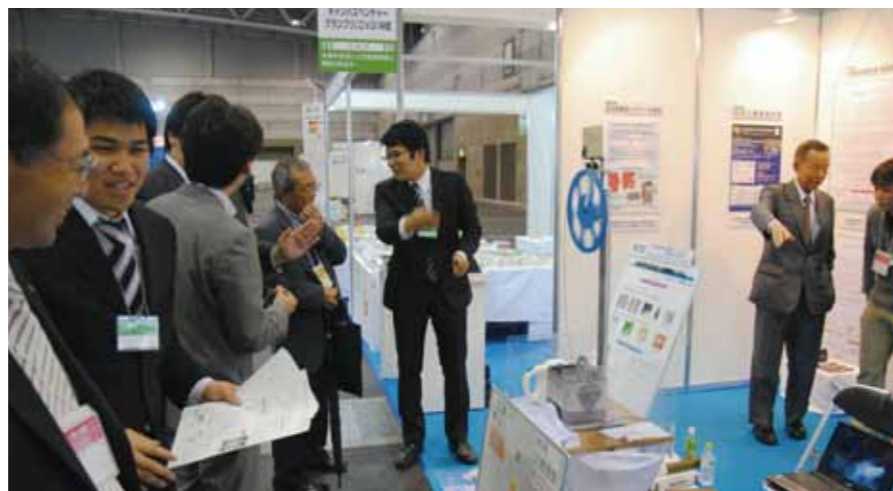
佐藤義久研究室(大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 / 工学部 電気電子工学科)

日本最大級 異業種交流展示会「メッセナゴヤ2011」にブース参加

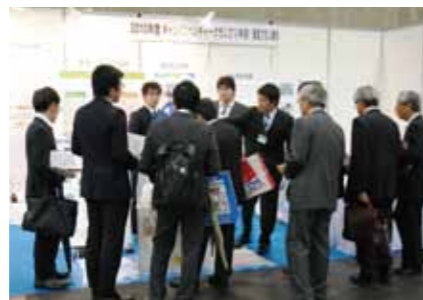
11月9日(水)から11月12日(土)までの四日間、ポートメッセなごやで開催されたメッセナゴヤ2011に佐藤研究室が参加。キャンパスベンチャーグランプリ中部のブースに昨年度努力賞を受賞した「新しい排熱回収型発電システム・形状記憶合金エンジン」を出展しました。

メッセナゴヤ2011は日本最大級の異業種交流展示会であり、今回は「明日を拓く提案～環境・安全・モノづくり～」をテーマに開催され、東海地方をはじめ、日本全国そして世界から過去最大の500社の企業や団体が出展。四日間でおよそ50,000人の来場者を集めました。

ブースで説明役を務めた佐藤研究室の学生たちは、200人を超えるさまざまな業種の人たちとの交流から、貴重な意見をいただくことができたようです。



▲ブースで説明する学生たち

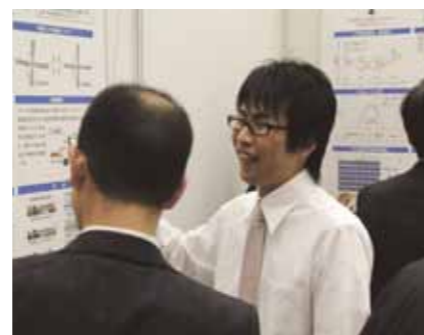


最新のエレクトロニクス技術とものづくりの最前線 「フロンティアエレクトロニクスショー2011」にブース参加

11月15日(火)、16日(水)の二日間、名古屋国際会議場で開催された「フロンティアエレクトロニクスショー2011」に佐藤研究室が参加。現在研究中である「風力発電や太陽光発電」、「排熱回収型新発電システム・形状記憶合金エンジン」をパネルとデモ機で展示・説明しました。

やはり東日本大震災以降は、新たなエネルギー供給方法の興味・関心が高まっている関係も

あって、ブースにはさまざまな分野の企業の人たちが訪れました。その際の意見交換で学生たちは、次の研究のヒントを得ることができたようです。「学外に出ることは、いつもと違った視点からの意見が聴け、とても良い刺激となるので、これからも積極的に展示・発表活動を行っていきたい」と話してくれた学生たちの表情は非常に頼もしく見えました。



▲ブースで説明する学生

名古屋観光ホテル開業75周年記念イベント 「親子で楽しむ 夏の工作教室」を開講

8月23日(火)、名古屋観光ホテルで開業75周年記念イベント「親子で楽しむ 夏の工作教室」が開講されました。講師を務めたのは、佐藤教授。エネルギー分野の権威として講師依頼を受けました。

今注目されている自然エネルギーについて学べるこの教室には、18人(子供10人/大人8人)

の参加がありました。(募集定員20人)

佐藤教授は「マジック風車を作ろう!」と題し、形状記憶合金が熱で元のかたちに戻ろうとする性質を利用して回転させる風車の製作・体験型教室を開講。参加した子どもたちの好奇心を刺激するイベントとなりました。



▲風車の製作をフォローする学生たち

高木基充研究室(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 / 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

「ポスターグランプリコンペティション」で 総勢7人が、入賞・入選

第2回ポスターグランプリコンペティション(主催:愛知、岐阜、三重県印刷工業組合)におきまして、高木研究室から総勢7人が入賞・入選しました。

中田寛信さん(大学院1年)が岐阜県知事賞を受賞、山下大貴さん(4年)が三重県印刷工業組合理事長賞を受賞、鷺見直子さん(4年)が株式会社共同紙販ホールディング名古屋支店賞を受賞しました。

また入選者として石濱那美さん・森萩大義さん

・山崎慎司さん(4年)、永田拓也さん(大学院1年)が入選しました。

テーマは「まちの魅力を伝えよう」。東海3県の郷土・観光・産業振興など地域活性化に関するものです。それぞれB1サイズの大判ポスターに仕上げ制作しました。

授賞式は11月3日(木・祝)、愛知県芸術文化センターで行われました。

また、入賞・入選作品は11月1日(火)から6日



▲山下さん(左)、鷺見さん(中)、中田さん(右)まで、愛知県美術館ギャラリーに展示されました。なお、第1回ポスターグランプリにおいても、高木研究室の学生が5人、入選しています。



▲中田寛信さん(岐阜県知事賞)



▲山下大貴さん(三重県印刷工業組合理事長賞)



▲鷺見直子さん(株共同紙販ホールディング名古屋支店賞)



▲石濱那美さん(入選)



▲森萩大義さん(入選)



▲山崎慎司さん(入選)



▲永田拓也さん(入選)

情報学部 情報デザイン学科 かおりデザイン専攻

「ベネッセ進学フェア」体験ZONEに出展

6月18日(土)、愛知県体育館で開催された「ベネッセ進学フェア」の体験ZONEで、光田恵教授・竹村明久講師・棚村壽三講師・岸上奈美江さんにブースを出展していただきました。

ブースで提供したかおり体験は、自分の嗅力を確認できる「嗅覚テスト体験」や、天然のエッセ

ンシャルオイルを使った調香が体験できる「自分だけのアロマオイルを作ってみよう」など。昨年に引き続き、たくさん的高校生や保護者、また会場スタッフまでもがブースを訪れ、大盛況。70人を超える人たちにかおり研究のほんの一部を体験していただきました。



▲オリジナルアロマオイルを作る高校生たち

堀美知郎研究室(工学部 機械工学科)
西堀賢司研究室(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

「次世代ものづくり基盤技術産業展-TECH Biz EXPO 2011-」に出展

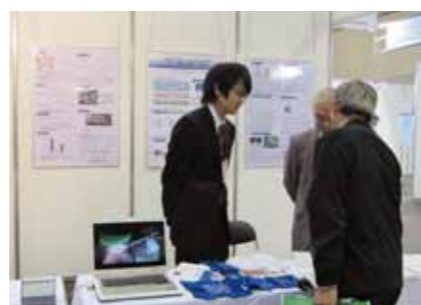
10月19日(水)から10月22日(土)までの四日間、ポートメッセなごやで「TECH Biz EXPO 2011」が開催されました。

このイベントは、コアの技術を活かし、新たな市場開拓を目指す新進気鋭の製造業の経営者、設計・開発の責任者、製造技術を追求される生産現場およびものづくりをサポートする方々にとって、既存技術の高度化と新技術による高付加価値な製品開発と製造現場における効率化・経営

向上のためのヒントを得る絶好の場として、毎年注目されています。

今年は、堀研究室が「燃料電池評価技術」、西堀研究室が「絞りにおける括り作業のロボット化」を出展しました。

また、20日(木)に開かれた、リスクマネジメントセミナーでは、澤岡昭学長が「大規模システムの危機管理と組織文化～原子力発電と宇宙開発の場合～」と題して、講演しました。



▲兵藤彰洋さん(大学院 修士課程 工学研究科 機械工学専攻2年) ㊟

堀美知郎研究室(工学部 機械工学科)

「クルマ未来博2011」で工作教室を開催

11月23日(水/祝)、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)で「クルマ未来博」が愛知県主催で開催されました。

このイベント内のプログラム、楽しく遊んで学ぼう「工作教室」に堀研究室が依頼を受け、参加。「燃料電池を作ってプロペラを回そう」を開講しました。燃料電池の仕組みや構造を自分の目で見て、実際に組み立て、そしてできあがった燃料電池でプロペラを回すこの教室には、定員いっぱい30人が集まりました。ものづくりの楽しさと不思議を学びながら環境とのかかわりについても考えてもらう教室となりました。

本学の他にも3教室(オークマ株式会社・株式会社デンソー・新東工業株式会社)、開講されました。



▲堀教授



武藤隆研究室(工学部 建築学科)

「佐久島弘法プロジェクト3 大学対抗リノベーション大会」公開プレゼンテーションに参加

10月22日(土)、西尾市佐久島・弁天サロンにおいて開催された、「佐久島弘法プロジェクト3 大学対抗リノベーション大会」の公開プレゼンテーションに、武藤研究室生4人が、参加・発表しました。

武藤研究室の案は、佐久島ならではのリノベーションをするために、島で廃棄された貝殻や海藻から、佐久島オリジナル漆喰をつくり、それで

弘法の祠を仕上げるというもの。

会場からは、素材の見つけ方が面白いという評価の反面、施工の仕方などの不確定部分を指摘されるなど、非常に意義のあるプレゼンテーションとなりました。

武藤研究室の現地での公開制作は、12月7日(水)～11日(日)の予定です。



▲公開プレゼンテーション

都市環境デザイン学科

環境デーなごや2011 中央行事

9月18日(日)、栄の久屋大通公園で「踏み出そう!地球のあしたへ 環境デーなごや2011」が開催されました。

このイベントは、地球にやさしいライフスタイルや環境技術などを紹介するブース、音楽ライブやトークショーなどのステージのほか、エコカー展示、フリーマーケットなど子どもから大人まで楽しみながら環境について考えることができるイベントです。

本学都市環境デザイン学科は毎年参加しており、今年は「リサイクルフラワーボトル&風車工房」と「液状化現象の実演」を出展しました。

「リサイクルフラワーボトル&風車工房」は、ペットボトルの再利用を体験していただくコーナーで、みなさん楽しみながら参加・体験していました。大人の方にはリサイクルフラワーボトル、子どもたちは風車が大変好評でした。

「液状化現象の実演」は、地震で大変な被害



▲液状化現象の実演

が出た液状化現象を実演・体験するコーナーで、参加者はとても熱心に聞き入っていました。

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻

阿久比町立英比小学校でロボットの学習会

10月15日(土)、橋口宏衛講師と石垣信明技術職員・ロボティクス専攻の学生8人が、阿久比町立英比小学校で開催された「ロボットの学習会」に参加しました。

英比小学校の5・6年生31人に対して、橋口講師の「ロボットと機械」と題した講話、学生によるポスターセッション、高度なロボットバトルの実演を展開。また、お菓子取りロボットやお掃除ロボットなどを、実際に操作してもらうなど、体験・参加型の学習会となりました。

このイベントは、地域住民らが学習支援や昔遊びなどの指導を行う学校支援事業「週末子ども教室」の一環として行われたもので、子どもたちはロボットの動きに身を乗り出して注目、楽しんでいました。

この様子は中日新聞(10月16日)や、愛知県半田市・阿久比町・武豊町をエリアとするケーブルテレビ局で紹介されました。



▲中日新聞(2011年10月16日)



▲ロボットバトルの実演



▲ロボットの操縦を体験する小学生たち

三原昌平研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

「美しい人の椅子展」、開催

9月27日(火)、A棟10階実験室で、「美しい人の椅子展」を開きました。

この会は、2年生2人、3年生7人の有志が集まった学生たちがこの夏、それぞれが椅子を制作し、発表したもの。併せて、三原教授がデザインした「美しく見せる椅子」も展示されました。

きっかけはふたりの3年生が、三原教授の紹介により東京で行われたデザイン教室に参加。10日間の武者修行。帰ってきたふたりに刺激されて集まった学生たちによって開かれました。

学生たちにとっては、夏休みに制作した作品

の成果発表会となりました。



▲発表後の記念撮影



▲学内に掲示された開催ポスター

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

学生製作短編映画「道德通商店街物語」、クランクアップ

9月4日(日)から7日(水)までの四日間、名古屋市南区道德町の道德通商店街を舞台に杉本研究室生を中心とした学生たち10数人による短編映画製作のロケを行いました。

脚本は杉本義宗さん(4年)が担当、撮影日前日まで書き直す日々が続き、最終稿は12稿まで及びました。

物語は、俳優を目指して上京した若者が、夢破れ再び故郷の商店街に戻るシーンから始まります。若者は無理やり商店街の組合長に就任、

人々と触れ合うことのできる商店街の魅力に今一度目覚める...というお話です。

撮影の準備は数月前から始まり、商店街の人たちの出演交渉からロケ場所の確保などさまざまなアクシデントにも見舞われながら、何とかクランクインにこぎつけました。

プロの俳優さんを交えて初めての映画撮影。監督を務めた谷口さやかさん(4年)をはじめ、裏方の制作部の学生たちもロケ場所を奔走する日々が続きました。

四日間という短い撮影期間でしたが、焼けつくような陽射しの中でのオープン撮影から、狭いロケセットの中での撮影と、時間に追われながらも何とか無事にクランクアップ。

これから編集と録音作業を年内に済ませて、来年1月に予定している愛知芸術文化センターでの上映に備えます。

タイトルは短編映画「道德通商店街物語」。乞うご期待を...



▲監督を務めた谷口さん



▲クランクアップ後に記念撮影



▲撮影現場



▲撮影現場

「映像ワークショップ」を開催

名古屋駅と名古屋城を結ぶ円頓寺商店街を舞台に、商店街の人々の一大おせっかい大作戦を描いた映画「WAYA!〜宇宙のおせっかい大作戦」が10月22日(土)に公開されました。

その公開を記念して、映画「WAYA」と大同大学がタッグを組み、9月17日(土)と18日(日)の二日間、映像ワークショップを開催しました。

名古屋弁の「わや」をキーワードにして、商店街で「わや」な状況を短い映画にするというテー

マで制作。参加した小学生から大人までの数人の演技経験者を相手に、杉本研究室生を始めとする学部生たちがスタッフとしてワークショップに参加。シナリオ作りから撮影、編集までの作業を二日間という短い期間で作りました。

「WAYA」の映画監督、古波津陽さんの指導を直接受けるなど、映像を作る楽しさを分かち合



▲中日新聞(2011年9月18日)

えることができた貴重な体験となりました。制作された映像は、「WAYA」のホームページでも公開される予定です。

女子ハンドボール部

快挙 創部2年目で「全日本学生選手権大会」に初出場!!

女子ハンドボール部が、11月2日(水)に岩手県花巻市で開催された全日本学生選手権大会(インカレ)に出場しました。創部わずか2年の快挙です。昨年は部員数がハンドボールコートに立てる7人だけというギリギリの人数で2部リーグからスタートしましたが、見事1季で1部に昇格を果たしました。

そして今年、新入部員10人が加入し、さらにレベルアップ。U-24女子日本代表ヘッドコーチでもある齊藤慎太郎監督の指導も生きて、東海学生

ハンドボール秋季リーグ戦では5勝1敗1分けの成績で2位に。その結果、2位までに与えられるインカレへの出場権を獲得することができました。

また、ベストセブンには、古関彩香さん(スポーツ情報専攻2年)と山口舞さん(スポーツ情報専攻1年)が選ばれました。

なお、この成果は中日スポーツ(10月27日)で紹介されました。



▲中日スポーツ(2011年10月27日)



片桐純平さん(ロボット研究部)

2足歩行ロボット大会で全国優勝!

10月8日(土)に川崎市産業振興会館で開催された2足歩行ロボットバトル「ROBO-ON E」の軽量級大会「第3回ROBO-ONE Light」に参加した片桐さん(工学部 機械工学科2年)が見事全国制覇、優勝しました。

ROBO-ONE Lightは大会公認の市販ロボット、もしくは1kg以下の改造・自作ロボットが出場できる大会です。片桐さんのロボット「ひてん」は本学ロボット工房での自作品で、33台のロボットによるトーナメント試合で勝ち進み、決勝戦では電気通信大学のロボットを下して優勝を決め、トロフィーと賞金10万円を獲得しました。海外からの参加者も多く、こ

れまでの優勝者は2回とも韓国選手でロボットも韓国の市販品でした。そのため自作機体としても日本選手としてもROBO-ONE Lightで優勝したのは片桐さんが初めてとなりました。



▲決勝戦、「ひてん」のパンチが炸裂



▲片桐さんとロボット「ひてん」

2008年から毎年、本学ロボ研選手が全国優勝しています!

2008年11月 ロボファイト08 優勝 大竹章司さん

2009年 5月 ロボファイト09 優勝(2階級制覇) 松原広司さん 小出真澄さん

2010年 5月 ロボファイト11 優勝 有賀聡紀さん

森口慎哉さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻2年)
「久屋大通映像フェスティバル」で見事、中京テレビ賞に輝く!

今年の秋、名古屋・栄の久屋大通公園で開催された「久屋大通映像フェスティバル Sakae Movie Award 2011」において、森口さんの作品が、中京テレビ賞に輝きました。

彼の作品は、授業「映像メディア表現I(杉本幸雄准教授担当)」で製作された60秒のショートムービー。テーマは「愛」。斬新な映像の切り口

とメッセージ性の強い字幕スーパーが評価されました。

作品は受賞後、栄周辺で上映され、多くの人々の眼に触れました。

受賞をきっかけに今後もたくさんの人に見てもらえる作品を作りたいと、森口さんは語ってくれました。



▲森口さん

Daido Formula Project 2011
「第9回学生フォーミュラ大会」で見事完走!!

9月5日(月)~9日(金)、静岡県のエコパ(小笠山総合運動公園)で「第9回学生フォーミュラ大会」が開催され、国内外の大学・短大・専門学校から75チームが参加しました。

学生フォーミュラ大会とは、学生が自分たちで構想・設計・製作する車両による競技会。本学

フォーミュラプロジェクトチームは今年で8回目の挑戦です。

どのチームもが目標とする「エンデュランス(耐久走行)の完走」ですが、本学は2005年大会で完走して以来、不運なマシントラブル等でリタイアが続いていました。しかし今年は、これまで積み重

ねてきた技術や知識が実を結び、ついに完走!!

エンデュランス部門では20位、燃費部門では5位となり、総合順位は昨年の48位を大きく上回る「28位になりました。」



服部智貴さん(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 1年)
「ネクストアプリケーションコンテスト」で、入賞

「ネクストアプリケーションコンテスト」アプリケーション開発部門において、並木浩一研究室の服部さんが入賞しました。

このコンテストは、株式会社NTTドコモ 東海支社とネクストコミュニケーションフォーラムコンテスト事務局が主催するスマートフォン向けアプリケーション開発およびアイデアコンテストで、「あなたの

身近な暮らしを、今よりもHAPPYにするアプリケーション」と題して、作品および企画書が募集されました。

服部さんは作品名「TravelASL」を制作し、応募作品257件の中から見事入賞作品に選ばれました。



DAIDO UNIVERSITY CAFE. vol.16

●中部学生新人競漕大会を終えて

漕艇部 加藤 大貴(工学部 都市環境デザイン学科 2年)



10月30日(日)、愛知県愛知郡東郷町の愛知池競漕場でボートの大会が行われ、大同大学はダブルスカル(2人乗りボート)が2艇出場しました。

僕たちは今シーズン最後のこの大会、優勝めざして一生懸命取り組みました。普段は週4回の練習でしたが、大会に向けては、ほぼ毎日

艇庫に寝泊りして、朝練習も実施。週10回のペースで練習、ボートを漕ぎました。

またお酒を飲まないようにしたり、アルバイトのシフトを減らしたりするなど、本気で挑みました。時には相方との意見の食い違いや理想の漕ぎができなくて苛立つこともありました。先輩やOB方の指導・応援もあって、無事大会当日を迎えることができました。

レース前は心臓が口から飛び出そうほど緊張しましたが、相方の「今までやってきたことをやり抜こう」という言葉で緊張がほぐれ、レー

スに臨むことができました。

結果、2位。

悔しさよりも嬉しさが勝っていて、終わった瞬間、あまり表に感情を出さない自分が吠えていました。

この大会でボートの奥深さと面白さ、そして支えてくれる人たちのありがたみを改めて感じることができ、これからのオフシーズン、筋トレ中心のメニューになりますが、モチベーションを維持して頑張っていこうと強く思いました。

次の目標はチームの皆を引っ張り、大学の最高峰「インカレ」に出場することです。

西堀賢司 教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)
有松・鳴海綾のお手伝いロボット開発

10月17日(月)の読売新聞に、西堀教授が開発した「有松・鳴海綾の作業を手伝うロボット」が掲載・紹介されました。

西堀教授は、有松・鳴海綾の技を受け継ぐ若者が不足し、伝統が絶えるのを心配した職人から「ロボットで綾が作れないか」との相談を受け、研究を始めました。

綾りの工程の中でロボットが手伝う作業は、最

も難しく、手間のかかる「絞り加工」。生地を藍などの染料で染める際、生地に糸を巻き付けておくことで、くっつた部分には色がつかず、独特の模様を作り出す工程だが、糸でくる代わりに、ロボットにゴムのキャップをはめこませようと考え、開発し、成功させました。

今年度中には、実際に作業できるよう準備を進めています。



▲取材を受ける西堀教授 ㊦



▲取材を受ける西堀教授 ㊦



▲読売新聞(2011年10月17日)

宇野享 教授(工学部 建築学科)
「日本建築学会作品選奨」、受賞

宇野教授が設計した「幕張インターナショナルスクール」は、幕張新都心に建つ、日本初の教育基本法第一条に即した「学校」としてのインターナショナルスクールで、「ハウスとネイバーフッド」という発達段階に応じたクラスターを重視し、幼稚園、小学校低学年、高学年の三つの独立した校舎と管理棟で構成されています。

子どもたちの居場所、子どもたちのつながり、子どもたちの成長に合わせた学習環境、子ども

たちの移動距離が少ない空間構成、上下足の履き替えがないことで、内外の活動がスムーズにアプローチできる点、敷地全体が学習生活の場となるよう、自由にさまざまな活動が可能なオープン型の学校に設計され、仕上がりました。

これからのひとつの小規模校の模範になり得る回答として優れていると日本建築学会に評価され、今年度、作品選奨に選ばれました。



▲幕張インターナショナルスクール

溝口正信 教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)
中部地方発 50kg級小型人工衛星の開発に参加

溝口教授、田島宏康教授(名古屋大学)と、航空宇宙分野に携わる中部地方の中小企業24社が共同で小型人工衛星の開発を進め、1号機「ChubuSat-1」を来年12月に打ち上げる予定です。

1号機は1辺およそ50cmの立方体で重さはおよそ50kg。打ち上げ後は、太陽光で発電して動くよう設計されています。可視光カメラおよび赤外線カメラを搭載し、大気中の二酸化炭素量や地表の温度の調査、地球の軌道上にある宇宙ごみの監視、津波の浸水範囲など大災害発生時の被災地の観測などに活用される予定。ま

た、一般のアマチュア無線利用者向けの中継サービスにも利用されます。

現在人工衛星を打ち上げるには、1基100億から200億円の費用が必要ですが、小型の人工衛星が実用化されると、価格も100分の1以下に。衛星による宇宙・地球環境の観測が容易になり、より包括的な宇宙・地球環境の開発を可能にし、「宇宙利用による大学の研究活動の拡大」、「中部地方中小企業の活性化」も目指しています。

溝口教授は、これまで知られなかった細かい宇宙ごみの状況を身近で詳しく調べ、その情報

を集めて、各国の人工衛星の安全な利用に役立ててもらいたいと話しています。

この情報は中日新聞・読売新聞(11/10)に掲載されました。



▲中日新聞(2011年11月10日)

渡部裕子 講師(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)
個展「鼓動の跡」、開催

栄のセントラルアートギャラリーにて、8月30日(火)から9月11日(日)まで個展を開催いたしました。

今年の個展テーマは「鼓動の跡」。何千年と続いている人間が「書く」という行為に改めて向き合い、その限りある「鼓動の跡」を必死で残そうともがく人間の本能そのものを論語からインスピレーションを得た一字書に表現。文字が書かれているところだけではなく、墨があしらわれていないところ、その軌跡を感じることが、書くという

行為の本能に触れられる唯一の空間なのではないかと思っています。

今回の個展は、新作15点(各サイズ700mm×1100mm)と有松鳴海紋りとのコラボレーション、また、9月3日(土)におこなわれたライブ書のイベントで揮毫した立体書の展示、と盛りだくさんでしたが、2週間で500人を超える来場者に感謝するとともに、今後もさらに深い作品創りができるように精進していきたいと思っております。

(渡部裕子 記)



▲ライブ書のイベントで仕上げた作品



▲立体書と映像

▲来場の様子

挑戦を続ける

川角匡史(教務室)

私は、小学生のころから、柔道・ラグビー・水泳・相撲・陸上とさまざまなスポーツにチャレンジしてきました。

どのスポーツにもそれぞれ楽しさや厳しさがあり、仲間の大切さなどを学び、自分を成長させてくれました。

社会人になり、新たなスポーツにチャレンジしてみたいと思い、ランニングを始めました。そのときに掲げた目標がフルマラソン完走。

そして、社会人3年目を迎えた今年、目標のフルマラソンに初挑戦する時が来ました。出場する大会は「袋井クラウンメロンマラソン」。期待と不安が入り混じるなかレースが始まり、10km、20kmと順調に進みました。しかし、25km

過ぎに心配していた両膝に痛みが走りました。その上、後半は山間部でアップダウンばかり。走れば、走るほど増す痛み、何度も心が折れそうになりました。ここで私の背中を押してくれたのが、地元ボランティアの人たちの声援と皆さんからいただいていた応援の言葉でした。最後まで踏ん張り、目標としていた完走を達成することができました。苦しかった分、喜びもひとしおで「やっぱりスポーツはイナ!」と改めて感じました。

次の目標は、今回のタイムを1分でも1秒でも更新することです。これからも挑戦を続けていきます。

DAIDO UNIVERSITY CAFE. vol.17



三原昌平 教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)
「アップルのデザイン史展」、開催

アップル社共同設立者の一人で元CEO、スティーブ・ジョブズ氏の逝去に伴い、F棟2階の展示室で「アップルのデザイン史展」を開きました(11月4日(金)~11日(金))。主催者は三原教授。展示室いっぱい陳列されたアップル社製品は全て三原教授の私物。開催時間16時から

18時の2時間、連日訪れる学生や教職員は、それらの製品を通して、アップル社とS・ジョブズ氏の歴史に触れていました。学生の質問に実際の製品を持って、歴史も含め説明する三原先生の姿が印象的でした。



▲会場の様子

新刊書出版

『地域交通の計画-政策と工学-』

共著：嶋田喜昭 准教授 (工学部 都市環境デザイン学科)

国土幹線級交通計画から地域交通計画への重点移行、公共交通活性化・再生事業が動き出し、地域公共交通計画策定のニーズが高まっている状況を踏まえ、政策論と技術の体系化を目指して纏められた交通計画学の教科書。(出版社の解説文より転載)

出版社：鹿島出版会
発行日：2011年10月
定 価：2,940円(税込)



『現代公益事業 ネットワーク産業の新展開』

共訳：小澤茂樹 准教授 (情報学部 総合情報学科 経営情報専攻) ※2012年4月新設

水道、電力、電気通信、放送、郵政、高速道路、鉄道、航空—日常生活の基盤となる産業の本質的な役割を明らかにし、豊かな経済社会を構築するための道筋を照らし出す。新たな課題に応える、スタンダード・テキスト。(出版社の解説文より転載)

小澤准教授は11章「鉄道」(P241-264)を担当しました。

出版社：有斐閣
発行日：2011年10月
定 価：3,045円(税込)



『実務に役立つ技術倫理』

共著：田中秀和 教授 (情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

技術者のための実務に役立つ倫理をまとめた一冊!近年になって求められてきた、責任ある技術者としての姿勢、すなわち技術に係わる者の倫理観の醸成を手助けするために編纂した一冊です。(出版社の解説文より転載)

田中教授は2章「技術倫理論文」の2-8「第二世代の技術者倫理教育」を担当しました。

出版社：オーム社
発行日：2011年10月
定 価：3,360円(税込)



『腕時計のこだわり』

著者：並木浩一 教授 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

腕時計は大人の男のたしなみである。機械式腕時計の世界は奥が深く、さまざまな楽しみ方がある。腕時計のブランドやデザイン、メカ機構など、腕時計の愛好家はどういった「こだわり」をもって腕時計に接しているかわかれば、腕時計はもっと面白くなる。ある人は精細で洗練された文字盤デザインに魅せられ、またある人は複雑で精巧なメカ機構の虜になる。なぜ人は腕時計に惹かれるのか、その魅力の秘密に迫る!

出版社：ソフトバンク クリエイティブ株式会社
発行日：2011年11月
定 価：798円(税込)



『ゴシック建築大成』 共訳：佐藤達生 教授 (工学部 建築学科)

「ゴシックの建築文化は、ヨーロッパの永い芸術史の中でも最大級の規模と質の高さで、他の芸術様式から抜きん出ている。フランク(1878-1962)は、一代を画した美術史家ヴェルフリンの高弟であり、本書はその様式理論を450年の永きにわたる全ヨーロッパのゴシック建築に適用して総合的な理論の構築を体系化した、数あるゴシック研究における並ぶもののない空前絶後の労作である。校訂者クロスリーの

15年に及ぶ詳細を極めた注釈・解説付き決定版。」(出版社の解説文より転載)

佐藤教授は第1部「ゴシック建築の歴史」の第4章「後期ゴシック様式」と第2部「ゴシック建築の基本問題」の翻訳を担当し、全体をとりまとめた。

著：パウル・フランク
訳：佐藤達生、辻本敬子、飯田喜四郎
出版社：中央公論美術出版社
発行日：2011年9月
定 価：60,900円(税込)



トコト先生！ 大活躍！

大東憲二 教授(工学部 都市環境デザイン学科)

「土壌環境セミナー2011」、開催

10月17日(月)、メルパルクNAGOYAで「土壌環境セミナー」を開催しました。主催は矢作建設工業株式会社と本学。

第4回を迎えた今回のセミナーは、「不動産に

潜む資産リスクへの早期対応術 ～土地活用や資産価値を守るための、企業や経営者がとるべき対策の第一歩。～」がテーマ。

大東教授は「ニーズ高まる資産リスクマネジメ

ント」と題し、基調講演の講師を担当。名古屋市の土壌・地下水汚染に関する条例改正の概説も含めて、リスク調査の重要性を伝えました。

鷺見哲也 准教授(工学部 都市環境デザイン学科)

メディアからの取材に対応

9月20日(火)の台風15号による豪雨災害、名古屋市守山区下志段味地区の庄内川氾濫、名古屋市100万人以上への避難勧告について、各メディアから取材が殺到。

テレビの電話取材では、災害当日の破堤現場から声を届けました。

9月21日(水) フジテレビ:「とくダネ」
電話録音取材(収録音声は豪雨当日9/20夕方 庄内川破堤現場より)
9月21日(水) 日本テレビ:「ZIP」
電話録音取材(収録音声は豪雨当日9/20夕方 庄内川破堤現場より)
9月22日(木) CBCラジオ:「朝からP・O・N」
電話生放送

「大槌町復興まちづくり創造懇談会」、アドバイザー委員に就任

「大槌町復興まちづくり創造懇談会」のアドバイザー委員に就任、10月13日(木)に開かれた第1回の懇談会に出席しました。

鷺見准教授は水環境・水防災の専門の立場から、復興まちづくりの在り方について町長に建言する役割。大槌町には4度調査に入り、氾濫

浸水域、遡上高の分布図、地盤沈下分布図を独自に作成、公表しています。

横井健二 教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

「CIAJえくすぱーとのれっじ・セミナー」で講師

8月29日(月)、CIAJ(一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会)えくすぱーとのれっじ・セミナーがCIAJ C～E会議室(東京都港区浜松町)

で開かれ、横井教授が講師を務めました。講演では、企業におけるブランド戦略に関して、プロダクトからソリューションまで、事例を交え

つつ顧客の企業に対する共感構築のプロセスについて説明しました。

新任教員紹介



五十川 幸宏 教授
工学部 総合機械工学科

本年、10月1日より大同大学にお世話になっています五十川(いそがわ)と申します。源平の時代の戦いで平氏に追われて岐阜の美濃の山奥に居を構えたのが先祖の始まりと聞いています。企業にて研究に携わり30年、塑性加工の将来を思い、コンピュータを利用した設計・製造技術開発や、特殊鋼の特性を最大限に生かす加工熱処理の観点から自動車用部材の成形加工の研究を行っていました。その間、山登りと体力を養うためのトレーニングが高じて長距離走の楽しみを覚え、

今はバイクに楽しみを覚えつつあります。将来はミニトライアスロンにトライしたいと思っています。大学では、企業にて素材から加工、部材の品質保証部門で得た知識や国プロの経験をもとに産学共同研究事業「ぎふ技術革新センター」に参画し、炭素繊維複合材料等の成形技術開発や塑性加工技術の各種要素技術の教育を通じて、積極的なリーダーシップが図れる人材を育成したいと思っています。



藤森 繁 講師
工学部 建築学科

2011年10月に建築学科に着任した藤森です。大学院満了後は大同大学で非常勤講師をしながら、町の構造設計事務所住宅や工場などの構造設計、耐震診断・補強などの業務に携わり、名古屋大学での助教を経て、このたびの赴任となりました。元々の専門は建築材料で、コンクリートの非破壊試験や補修材料の物性について研究をしてきました。現在、地球環境への影響の問題から、既にある建築物をどのように補修し長持ちさせるか、新しい建物を建てる時には、どうすれば長持ちさせられるかが大きな課題となっています。今後は、コンクリートだけでなく

鋼材や木材についても、材料と構造の両方の目から見て、長期利用、あるいはリサイクルを考える必要がありますので、木質材料や、部材を簡単に交換可能な構造システムの構築のための新たな勉強を始めたところです。

建築は非常に幅広い分野の知識を必要とします。ここで学んだことは、将来どんな道に進んだとしても必ずどこかで役に立つと確信します。卒業し、社会に出た時、思い出し、利用することができる知識を得られるよう努力していきます。どうぞよろしく願います。

図書館だより

後援会予算による「選書ツアー」の実施!!

初の試みとなる「選書ツアー」を8月8日(月)、丸善株式会社名古屋支店(栄)で実施しました。

1人3万円の選書金額。参加した大学院生3人、学部学生6人は真剣な表情で、授業や研究に必要な図書、読みたい図書、友達に薦めたい図書など、大学図書館にふさわしい図書を選書してくれました。

また、第2回を11月22日(火)、株式会社三省堂書店(JR名古屋高島屋店)で試みました。今回は第1回より多い、大学院生6人、学部学生8人が参加しました。

参加した学生からは「学生の選書希望に応えてくれる大変良い機会であり、今後もぜひ続けていきたい」という感想や、「図書館内全ての本を把握できないと重複してしまうことがあるので、図書館蔵書の分野別簡易リストを作成していただけたら」などの要望も聞くことができました。

購入した図書は、図書館1階「選書ツアー図書コーナー」に配架されています。選書した学生に作成してもらったPOPも展示してありますので、見に来てください。

今後もたくさんの人に図書館を利用していただくため、このようなイベントを企画していきますので、ぜひご参加ください。



▲選書ツアー図書コーナー

図書案内「POP展」開催

図書館では「お気に入りの一冊、発見!」をテーマに、所蔵している図書の紹介カード「POP」を集めた展示会を7月4日(月)から9月8日(木)まで開催しました。

展示している「POP」は、図書館でアルバイトしている本学学生が作成したもので、2010年に購入した図書が中心となっています。ポスターの一部も学生が作成しました。

展示場所は図書館だけではなく、B棟、S棟、白水校舎など学内のいたるところに展示され、図書館・S棟には購入して欲しい図書の申込ができるリクエストカードやPOP展の感想を記入するノートも設置しました。

「思わず読んでみたくなる」ような本と巡り合っていたら幸いです。



▲図書館1階



小澤 茂樹 准教授
情報学部 総合情報学科
経営情報専攻 (2012年4月新設)

2011年10月より総合情報準備学科に赴任しました小澤です。総合情報学科は2012年4月に新設される学科であり、この学科の経営情報専攻に所属します。専門は、物流論、交通経済学です。これまでは、主にトラック輸送と鉄道貨物輸送を有機的に結合した輸送(インターモーダル輸送)に関する研究を行ってきました。

本学では「ロジスティクス概論」や「物流コストと在庫管理」などの講義を担当する予定です。これまで本学においては、「モノを作る」という研究が盛んに行われてき

ましたが、「作ったモノを効率的に輸送する」という側面から、本学の研究の幅を広げたいと思っています。

東日本大震災からも明確になったように、モノの輸送やその管理などは我々の生活だけでなく生産活動にも不可欠な存在です。一方で、企業活動において、モノの輸送や管理は世界規模で行われつつあり、その重要性は一層大きくなっています。学生の皆さんとは、こうした重要かつ、やりがいのある研究を一緒にしたいと思っています。



平林 健治 教授
教養部 外国語教室

9月1日より教養部外国語教室に着任いたしました平林健治です。専門分野は応用言語学・英語教育学で、授業としては英語を担当しています。英語というと苦手と言われる学生さんもおられるかもしれませんが、グローバル化した社会で活躍するためには英語は非常に大切になります。

私は大学を卒業後、電気通信の会社に就職し、その後、英語教師を志し、公立の高等学校での英語教諭を経て、愛知県内の他大学で教鞭を執りました。かなり紆余曲折した人生を過ごしてきましたが、その間、いつも多くの

方々に支えられてきました。貴重な出会いという縁に感謝しています。そして、本学に勤務することになった縁も大切にしていきたいと思っています。私事で申し訳ないのですが、もう30年も前のこと、兄のようにしていた従兄が本学に通っており、彼に連れられ大学というところを初めて目にしたのが当時の大同工業大学です。

本学での新たな出会いに感謝するとともに、次代を担う学生の英語力の向上を図れるように最大限の努力をしていきたいと考えております。